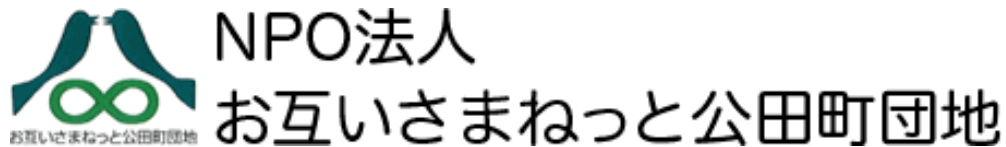


栄区 公田町団地地区

「お互いさまねっと公田町団地」 の活動について



公田町団地の概況

JR大船駅よりバス15分のところにあり、団地全体が小高い丘の上に建っているため、団地内は坂が多い。

昭和39年から入居開始(築48年)

規模 全33棟

1DK	260戸	2DK	590戸
3K	310戸	総数	1160戸

人口 約2,000人、世帯数 約1,000世帯

高齢化率 約40%

お互いさまねっと公田町団地ができるまで

公田町団地が抱えていた課題

- ① 団地内のコンビニが撤退して買い物が不便に！
- ② 地域(団地内) 人のつながり、人の関わりが希薄になってきた
- ③ お互いの顔が見えなくなってきた
- ④ ちょっとした心配はどこに相談したら良いの？

平成 8年6月	スーパー	閉店
平成 9年6月	コンビニ	開店
平成19年5月	〃	閉店

3

ちょうど栄区役所から自治会、民生委員に
「見守り活動の充実を図りませんか？」との声かけから

平成20年7月 **お互いさまねっと公田町団地**
事務局(運営)体制立上げ

タウンミーティングの開催(昼・夜/日を含め5回)

運営協力者研修会 開催

(お話し相手ボランティア研修講座)75名参加→29名
が協力者登録

4

事務局では、タウンミーティングの声を踏まえ
相談事業及びあおぞら市開催を検討

平成20年10月1日 社会福祉士による
相談事業開始
毎週火曜日・土曜日 10:00～16:00

平成20年10月7日
あおぞら市 スタート
毎週火曜日 10:00～15:00

5

活動を継続するには・・・

1 NPO法人化 (任意団体のままではいろいろ不都合なことが・・・)

① 活動内容を広げよう

相談事業を発展！ その他の活動も広げたい！
運営協力者として賛同した29名が中心に法人化を目指す

注：②及び③は、活動を始めて気がついたこと

② 活動参加者を広げよう

NPO組織にして会員を拡大(正会員、賛助会員、企業会員)
活動内容の幅を広げて様々な層の活動者を

③ 活動資金の確保

助成金・寄付金
NPOの会費
イベントでの活動資金の確保点を確保しよう

2 活動拠点を確保しよう

元店舗前での「あおぞら市」を続けたことから、空きスペースの活用を希望

3 相談・見守りを充実しよう

1 NPO法人化

平成21年

6月22日 NPO法人 お互いさまねっと

公田町団地 設立総会

神奈川県にNPO法人の申請書を提出

9月11日 神奈川県に認証された

9月14日 登記、法人成立

7

2 活動拠点を確保しよう

団地内空き店舗の利用のため厚生労働省、
国土交通省のモデル事業を受ける。

「安心住空間創出協議会」を設立
(都市再生機構、健康福祉局、まちづくり調整局、栄区の協議体)

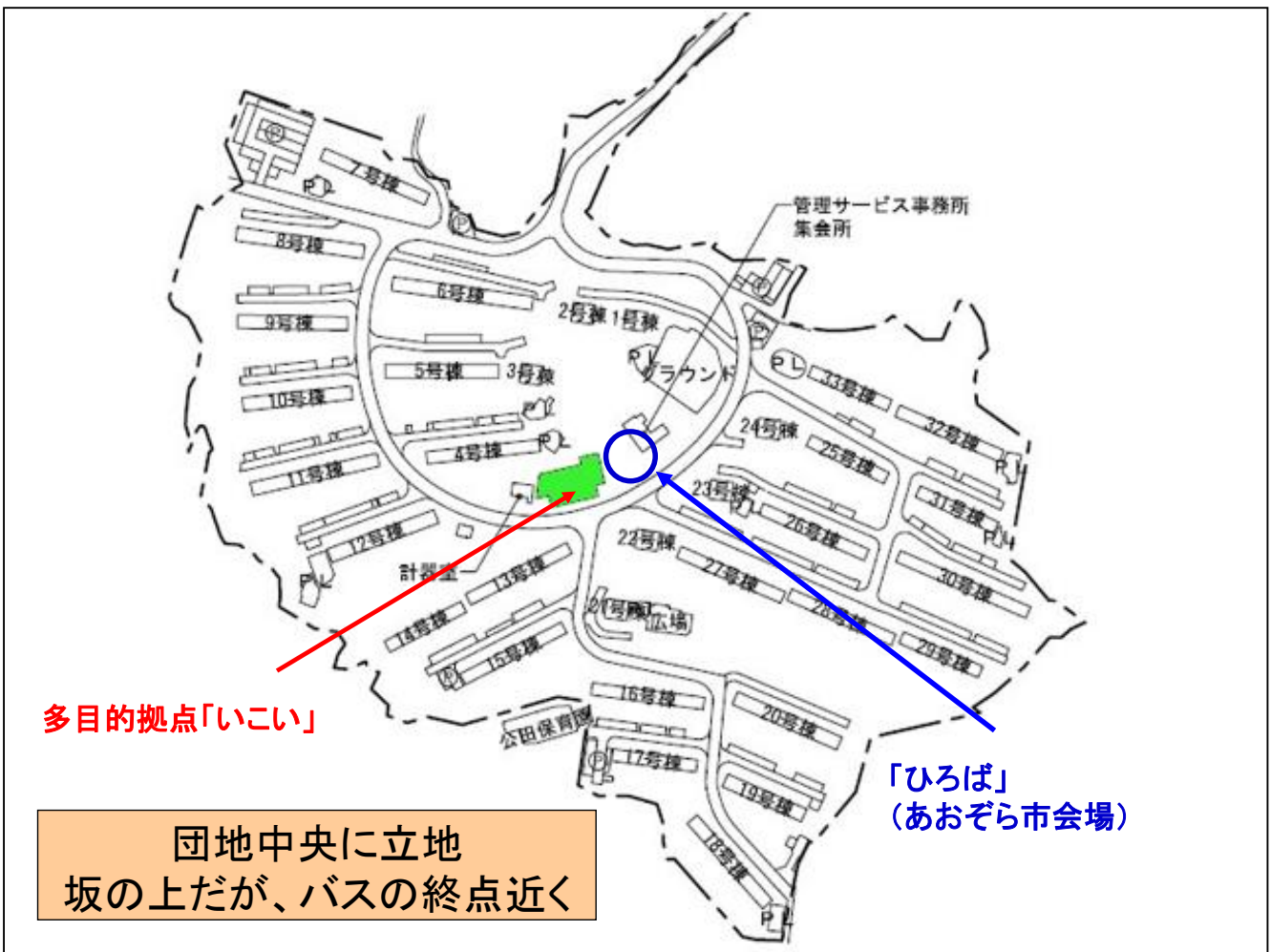
スーパー、コンビニの店舗跡を

多目的拠点(仮称)に改修し、

平成22年3月26日

お互いさまねっと「いこい」開所

8



拠点「いこい」の取り組み

- あおぞら市
- 日用品・お菓子などの販売
- サロン(軽食・喫茶の提供)
- 定期イベント
- 季節のイベント
- 場所の貸し出し
- お互いさま生活サポート事業

生活支援

住民が困ったときに応えられるようなサポート

例えば

- ・ 買い物
- ・ 病院(外出)付き添い
- ・ お掃除
- ・ 話し相手
- ・ 電気器具のトラブル
- ・ 安否確認など

11

3 相談・見守りを充実しよう

拠点「いこい」に

相談と見守りを取り組む体制「安心センター」
をつくる

- ①身近な相談窓口(よろず相談)
- ②緊急時の安否確認→登録者の募集
支援員による相談と必要時、駆けつけ
- ③生活情報の提供
- ④仲間づくりのお手伝い
「いこい」でのイベント、サロン

見守り活動＝顔見知りを増やす活動

見守り支援員の平均居住年数は28.4年

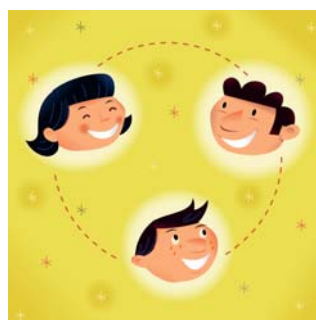
⇒団地の人をよく知っている、知られている関係
(見守りのベースは顔の見える関係)

⇒安心センターの活動には・・・

見守り支援員8名 民生委員4名

地域ケアプラザ職員1名

私たちの強み！



見守りの方法

さまざまな機会を活かし
複数の目で見守り
ちょっとした変化に気づく
(重層的な見守り)

- ① 「いこい」での見守り
 - ・来所されたときの様子、お元気ですか
 - ・外出頻度の確認、困りことの相談等
 - ・あおぞら市での声かけ(買物だけの利用者)
- ② 通りすがりで見かけたら「あいさつ」「声かけ」の実行と、様子の時経変化に気をつける
- ③ 部屋の外から
照明が点灯しているか、洗濯物干されているか
- ④ ポストに 新聞や郵便物などたまっていないか
(不在・事故)

異変に気づいたら

- ① 安心センターに連絡、対応の協議
- ② 安否確認
 - ・ 電話連絡や訪問など
 - ・ 家族へ連絡(安心登録者)
- ③ 緊急時
 - ・ 必要時は救急車要請、

※上記以外については、関係機関と連携を取り、対応を依頼する。

15



活動の成果

地域の課題(困りごと)を「お互いさまねっと公田町団地」をはじめとする、地域の住民による活動を活かし、解決策を取り組んでいること。

孤立死を経験→何とかしなきゃ！活動の出発点
昔からともに生活をしている者同士の支援活動
→支援員の居住年数は28.4年

あおぞら市を開催→住民に活動が見える化
やる気を共有する仲間の存在→活動の原動力！



活動の成果

「いこい」での買物支援や様々な活動と、相談・見守り支援を重ね合わせられるようになり、お互いさまねっと公田町団地の活動が理解されるようになったこと。

活動の見える化

- 地域から頼りにされていると実感
(東日本大震災当日、その後、来訪者が増加)



活動の成果

栄区役所、桂台地域ケアプラザ、UR(都市再生機構)からの支援と協力関係をきづけたこと。

情報の提供(研修、助成金等)
助成金等で拠点の確保を支援



課題

活動の継続性を維持するために・・・

- ① 支援者の高齢化に対しての対策
- ② 新しい担い手の広がり
- ③ 財源の確保の難しさ



お互いさまねっと公田町団地

NPO法人

お互いさまねっと公田町団地



<http://www.otagaisama-ikoi.org/index.html>